

九州大学 社会包摂デザイン・イニシアティブ キックオフ・シンポジウム

開設を記念してシンポジウムを開催します。社会包摂デザインの現状と課題、「しくみ」デザインの可能性などについて議論していきます。

2021年 8月1日 [日] 14:00-17:00
参加方法=Zoom オンライン

[プログラム]

司会 尾方義人 (九州大学大学院芸術工学研究院教授)

第1部 社会包摂デザイン・イニシアティブの開設

ご挨拶

谷 正和 (九州大学大学院芸術工学研究院長)

「九州大学の現状と課題

— 社会包摂デザイン・イニシアティブの開設に当たって —

内藤敏也 (九州大学理事・事務局長／男女共同参画推進室長)

「九州大学のインクルージョン支援に関する現状と課題」

田中真理 (基幹教育院 (兼) キャンパスライフ健康支援センター
インクルージョン支援推進室)

「社会包摂デザイン・イニシアティブの概要」

中村美亜 (九州大学大学院芸術工学研究院准教授)

第2部 ゲストによる講演

「ビジネス／マーケティング／市場のデザインの観点から」

林 孝裕 (電通ダイバーシティ・ラボ (DDL) 代表)

「場づくりのデザインの観点から」

耘野康臣 (NPO法人 九州コミュニティ研究所代表)

「対話のデザインの観点から」

原 真理子 (インランドノルウェー応用科学大学研究員)

————— 休憩 —————

第3部 ディスカッション

モデレーター 宮田智史 (NPO法人ドネルモ事務局長)

終わりの挨拶

尾本 章 (社会包摂デザイン・イニシアティブ長／九州大学大学院芸術工学研究院副研究院長)

[講師プロフィール]



林 孝裕 Takahiro Hayashi
電通ダイバーシティ・ラボ (DDL) 代表

(株)電通にて、コミュニケーション戦略、商品・サービス開発、事業開発など戦略領域全般に従事。2011年に設立された社内タスクフォースDDLにて戦略統轄を担い、多数のプロジェクトをプロデュース。2017年「インクルーシブ・マーケティング®」を立ち上げ、D&Iを前提とした新しいマーケティングコンセプトとして普及活動中。



原 真理子 Mariko Hara
インランドノルウェー応用科学大学研究員

兵庫県生まれ。ノルウェー在住で二児の母。認知症の祖母の介護に関わった経験により、音楽による認知症ケア実践や研究に関わるようになる。英国エクセター大学社会学部 Ph.D. 取得 (2013年)。社会学博士。ノルウェー移住後は、移民ミュージシャンのエスノグラフィー研究、音楽とウェルビーイングの研究を行っている。



耘野康臣 Yasuomi Unno
NPO法人 九州コミュニティ研究所代表

1969年熊本生まれ。プロデューサー、ディレクター、デザイナー、現代美術作家。2004年に「デザインの最適化」をミッションとして特定非営利活動法人九州コミュニティ研究所を設立。他に、NPO法人アクションタウンラボ共同代表。SOL DESIGN INC. 代表取締役。文化庁文化的景観調査員。平戸市文化的景観推進委員会委員。など。



宮田智史 Satoshi Miyata
NPO法人ドネルモ事務局長

1984年福岡生まれ。九州大学大学院芸術工学府修士課程修了。2012年、超高齢社会に向け、「自分たちの暮らしを自分たちでつくる」文化的な社会を目指して、高齢社会のコミュニティづくりに取り組むNPO法人ドネルモを設立。その他に大野城市共働コーディネーター、福岡大学非常勤講師 (生涯学習支援論) など。

[お申し込み]

社会包摂デザイン・イニシアティブのウェブサイトのTopページ「Topics Updates」よりお申し込みください。

<https://www.didi.design.kyushu-u.ac.jp/>



[お問い合わせ]

九州大学大学院芸術工学研究院
社会包摂デザイン・イニシアティブ

TEL: 092-553-4552

E-mail: didi-office@design.kyushu-u.ac.jp



大学院芸術工学研究院
大学院芸術工学府
芸術工学部



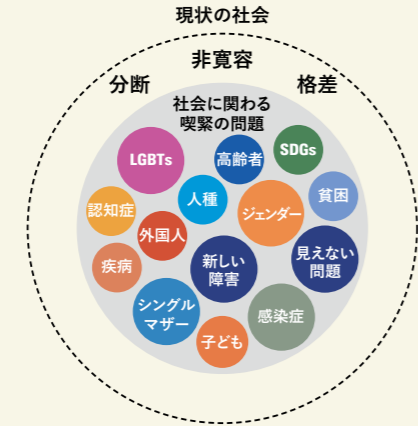
Design Initiative for Diversity & Inclusion

社会包摂デザイン・イニシアティブ

(2021年4月にソーシャルアートラボを拡充する形で開設)

社会包摂デザイン・イニシアティブとは

社会包摂デザイン・イニシアティブは、多様なニーズに応じたサービスを提供し、個人のポテンシャルを引き出すための「しくみ」をデザインすることで、健全な成長や、豊かさの新しい価値を生み出す社会づくりを先導する研究教育機関です。ソーシャルアートラボ、シビックデザインラボ、デザインシンクタンクの3つから構成されています。(従来のソーシャルアートラボの取り組みを発展させていく後継組織です。)



デザインによる問題解決
問題の背後にある真の課題を発見し、「関係の再構築」や「価値の変容」をもたらすことで解決に導く

新しい社会のあり方の模索

包摂型社会 形成の必要性

包摂型社会とは
障害、貧困、国籍、性的指向などによって社会から疎外された少数派の人々をはじめとして、すべての人の個別のニーズに応じたサービスを提供することで、健全な成長力や「豊かさ」の新しい価値が生みだされる社会

本事業が取り組む課題

- 「しくみ」のデザイン
1. 多様な人へのサービス
 2. 人々の関係性(例：健康者・障害者)の変化
 3. 新しい「価値」を創出

戦略的課題 (令和3~6年度)

1 課題解決法の刷新

「多様性」と「包摂性」という一見矛盾する課題を両立させるデザインを開発し、社会実装すると同時に、その知見を体系化します。

2 シンクタンク機能の強化

学内外の多様なステークホルダーの情報を集積・整理し、シンクタンク機能の充実をはかります。

3 法務戦略

専門家と連携して法律や条例等を検証し、新しい「しくみ」のデザインを社会実装する際の法務戦略を検討します。

4 国内外の調査

国内外のユニークな「しくみ」のデザインに関する事例を調査分析することから、新たな知見を生み出します。

5 教育との連携

学部・大学院教育で社会包摂デザインに関わる講義や演習科目を提供し、研究と教育の連携をはかります。

「しくみ」のデザイン

社会包摂デザイン・イニシアティブでは、「関係の再構築」や「価値の変容」をもたらすデザインのあり方を模索することから、人どうしの関係性が多様で包摂的なものへと変化する「しくみ」のデザインを開発し、社会実装していきます。

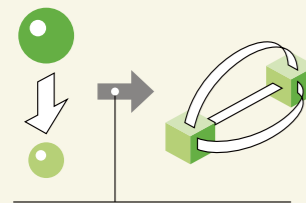
ここで言う「しくみ」のデザインは、主に次の3つを指します。

- ① 複数のもの/ことなどを組み合わせる「しくみ」(=システム)のデザイン
- ② 新たなデザインを生み出すための「しくみ」(=プロセス)のデザイン
- ③ 課題の背後にある「しくみ」(=メカニズム)を変容させるデザイン

社会包摂デザイン・イニシアティブでは、これらの「しくみ」デザインを実際に行ないながら、「しくみ」デザインに関する知見の体系化を目指します。

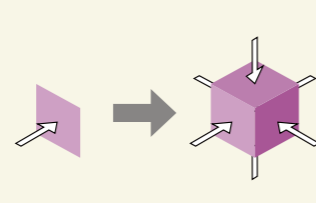
[デザインプロセス]

関係の再構築



部分の理解→高次元な理解

価値の変容



一意的な関係→多次元な関係

社会実装

「しくみ」デザイン

政策提言
評価方法
教育プログラム

情報デザイン、空間デザイン
機器デザイン、ソフトデザイン
音響デザイン、サービスデザイン
システムデザインなど

事例：「社会的処方 (Social Prescribing)」

イギリスで行われている医学的処置と地域の活動やサービスを連携させることで、財政負担を軽減しながら、慢性疾患やメンタルヘルスなどを抱える人の健康やウェルビーイングの向上を目指す社会の「しくみ」。不安や抑うつが改善し自己効力感が向上するのに加え、救急外来患者が減少し、予期せぬ入院による年間コスト570万ポンドが、450万ポンドに減少した(約1.6億円)との報告がある。北欧諸国にも似た「しくみ」がある。

ソーシャルアートラボ

舞台芸術と音響技術による社会包摂のデザイン

研究グループ
尾本章 (応用音響工学)
長津結一郎 (アーツマネジメント) 他

舞台芸術分野の社会包摂を目的として、北九州芸術劇場と九州大学芸術工学研究院、ヒビノ株式会社とで技術連携し、新技術の活用により、実演パフォーマンスとライブストリーミング配信の双方向的融合を実施・検証します。



自然の循環と協働体の再生のためのアート実践のしくみ — 物語からのアプローチ

研究グループ
知足美加子 (彫刻) 他

アートによる精神的で能動的な現実経験＝「物語」による自己理解の深化が、意識の繋がりを再生すると仮定し、社会的分断や孤立を防ぐための協働での「物語」の創造・共有・伝達の過程や実践のしくみ・連携体制を検証・検討します。



「半農半アート」を基盤とした地域づくりのしくみ

研究グループ
朝廣和夫 (緑地保全学)
長津結一郎 (アーツマネジメント) 他

課題が山積する中山間地域等の農村社会において、芸術活動を地域の文脈に即して導入する「半農半アート」のライフスタイルを基盤とした包摂型地域づくりや農業ボランティアの新しいしくみモデルを形成・提案します。



共創的アート活動を通じた認知症ケアのコミュニケーションデザイン

研究グループ
中村美亜 (芸術社会学)
尾方義人 (インダストリアルデザイン) 他

地域共生社会の実現に向けた認知症ケアのため、共創的アート活動の手法や活動の変化を日常生活に反映させるしくみの開発・知見の体系化を行なっています。

※JST-RISTEX「認知症包摂型社会モデルに基づく多様な主体による共創のシナリオ策定」連携プロジェクト

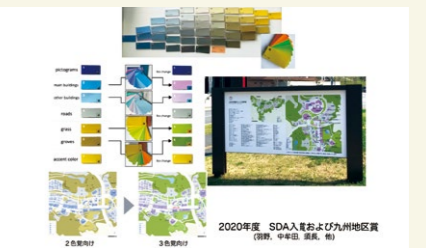


©鈴木藤蔵、提供：東京文化会館

多様な色覚特性を持つ人に伝えるためのデザイン

研究代表者
須長正治 (色彩・視覚科学)
伊原久裕 (グラフィックデザイン) 他

色覚正常を前提とした従来の配色作業の出発点を色覚異常に転換し、色覚異常を基点としたカラーユニバーサルデザイン手法の実用化や、色覚異常の人でも自由にアート活動に参加することができるしくみ作りを行います。



2020年度 SDA入居および九州地区調査 (須長、伊原、尾方、他)

多様な人たちを包摂するサインデザイン実践の方法論としくみづくり

研究グループ
伊原久裕 (グラフィックデザイン)
工藤真生 (サイン計画、視覚記号) 他

国際競技大会でのデザイン実践、認知症者や高齢者を対象としたケーススタディ、障害を有する人の調査と社会実装を通して、多様な人を包摂するサインデザイン実践の方法論の体系化やしくみづくりの提案を行います。



ジェンダー/LGBTsのデザイン

研究グループ
尾方義人 (インダストリアルデザイン)
中村美亜 (芸術社会学) 他

日本においてジェンダー不均衡が是正されず、LGBTへの差別が後を絶たない状況を踏まえ、福岡市男女共同参画推進センター アミカスと共に、新しい啓発手法の開発や連携のしくみの検討、自治体間で異なるパートナーシップ制度への再考を試みます。



デザインシンクタンク

戦略的研究

研究グループ
尾方義人 (インダストリアルデザイン)
中村美亜 (芸術社会学) 他

社会包摂デザイン・イニシアティブの「戦略的課題」(左ページ)に基づき、国内外の調査、新たな課題解決法(しくみデザイン)の体系化、シンクタンク機能の実装、法務戦略の策定、教育との連携を実施していきます。

